

2021年度 スクールソーシャルワークセミナー 報告

1. 実施概要

テーマ：子どもとかわるための視点を学ぼう～援助関係のための観察～

日時：2021年12月11日(土) 13:30～15:30

開催方法：ZOOMを用いたオンラインによる開催

参加者：20名(講師除く)

日程：

時間	内容
13:30～13:35	開会挨拶
13:35～15:20	講話「子どもとより良い関係を作るための『観察の視点』 ～人は思い込みにより、事実を正確に捉えていないことがある～」 講師 社会福祉法人 新天地育児院の副院長 龍尾 和幸氏
15:20～15:30	質疑応答・閉会挨拶



2. 具体的内容

スクールソーシャルワーカーとして、クライアントとの援助関係を構築する上で観察は必要なスキルです。スクールソーシャルワーカーが、子どもとかわるときに、必ず子どもを観察します。子どもが、いつ、どこで、どのような言葉を発し、どのような表現や表情をしているのか、その意味は何かと1つひとつ考え、その観察が根拠となり、子どもの想いにつながるようにも思います。観察と一言で表すことはできても、観察とはどういうことかとじっくりと深く考える時間になりました。

【知らないものは、見えない、知っているからこそ見える】

“河童”を知っている人はどのくらいいるでしょうか？もし少し離れた池に、河童のような生き物が現れたとき、みなさんはどう表現しますか。河童を知っている人は、河童と表現すると思います。でも、河童を知らない人はどのように表現するのでしょうか。河童を知っている人は、離れたところからでも、河童と答えることができると思いますが、それは河童を知っているからであり、自分の知っていることだからこそ見えるものです。どのように見えるか、人それぞれの生い立ちや背景が異なると、見え方も変わってきます。その背後にある成り立ちも考えて観察ということだと学びました。

【観察なくして援助なし】

私は、この「観察なくして援助なし」を、龍尾氏の名言にも思っています。観察なく、援助はできるのでしょうか？情報を聞くだけで援助をすることは、本当に援助といえるのでしょうか。クライアントを観察し、気持ちを聞き、それでも言葉にならない想いを感じるとることが、援助の始まりだと思っています。そのためにまず、じっとみる。穴があくほどじっとみるのが、観察の始まりです。ただ、みるだけではなく、クライアントの付け根の部分までみる。付け根とは、生い立ちは、どう生まれ育ったのか等、その人の成り立ちです。付け根を理解する中で、なぜこの部分にはこだわりのか、なぜこのことには一生懸命なのかと、クライアントに対して“なぜ？”と疑問に思い、それはなぜなのか知ろうとすることも観察に含まれています。観察をしていると、クライアント自身も気づいていない生い立ちもあると思います。観察からクライアントを知ることがスクールソーシャルワーカーには大切だと思いました。

龍尾氏の講演によって、自分の活動を振り返り、子どもの想いを聞くために私にできることは何かと考えました。新天地育児院には“一人一人は大切なり”と書かれた大きな揮毫がありました。龍尾氏から1人ひとりを大切に、丁寧に観察することの大切さを熱意とともに学ばせていただきました。スクールソーシャルワーカーとして目の前にいる子どもを観察し、子どもの想いを知ることが、これからも大切にしたいと改めて考えさせていただきました。ありがとうございました。(記録：清水 美沙)

